



つながる。まわる。圏央道。
圏央道（神崎IC～大栄JCT）が開通しました



— 記者発表資料 —

国土交通省
東日本高速道路株式会社

平成27年6月7日(日)に圏央道（神崎IC～大栄JCT）が開通
圏央道により常磐道から東関東道がつながりました

圏央道のストック効果※をお知らせします

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

〈主なストック効果〉

○インバウンド観光を後押し（p2）

- ・ 圏央道の開通による **成田空港からのアクセス向上を茨城県がPR**
- ・ 成田空港から水戸を経由するバスツアーを増便[**2本／年から40本／年**]する旅行会社もあり、
県周遊ツアー数が増加[前年度の2.8倍※] ※平成27年度は4月～12月の9ヶ月
- ・ 一昨年全国34位だった外国人宿泊者数が、昨年30位※に
県では、県内の圏央道全通を見据え、**更なるインバウンド観光推進のための方策を検討中**
※1月～11月速報値

○一般道が安全・快適に（p3）

- ・ 圏央道に交通が転換したことで、一般道がスムーズになり、急ブレーキの発生割合が減少
- ・ 成田警察署管内（成田市）の一般道の交通事故発生件数※が前年比 **約4%減少**
※物損事故件数及び人身事故件数の概数

○企業の生産性向上やドライバーの労働環境改善に貢献（p4）

- ・ 1台のトラックが1日のうちに複数箇所への輸送が可能になるなど、**トラックの稼働率が向上し、
企業の生産性向上に寄与**
- ・ ドライバーの拘束時間の減少が見込めるなど、**労働環境の改善に期待**

○緊急・災害時に迂回が可能に「圏央道－東関東道経由」（p5）

- ・ 常磐道の通行止時に、つくば～箱崎間の迂回機能を圏央道・東関東道で発揮
迂回により **圏央道の交通量が約8割増加**

平成28年度には、東名高速から東関東道が圏央道でつながります。
圏央道（**境古河IC**～つくば中央IC間）開通予定

効果① インバウンド観光を後押し

- 圏央道の開通による成田空港からのアクセス向上を茨城県がPR
- 成田空港から水戸を経由するバスツアーを増便[2本/年から40本/年]する旅行会社もあり、県周遊ツアー数が増加[前年度の2.8倍※]
※平成27年度は4月～12月までの9ヶ月間
- 一昨年全国34位だった外国人宿泊者数が、昨年30位※に
県では、県内の圏央道全通を見据え、更なるインバウンド観光推進のための方策を検討中
※1月～11月速報値

成田空港発茨城県経由の外国人旅行者向けバスツアーが増加

■茨城県 観光物産課の声



茨城県
観光物産課

- ・外国人観光客を取り込むため、アジア圏の旅行会社へ向けて、観光地の魅力と、圏央道の開通によるアクセス性の向上について、PR活動を実施しています。
- ・県内の圏央道全通を見据え、更なるインバウンド観光推進のため他県との広域的な周遊観光強化を検討しています。

出典) 平成28年1月 ヒアリング調査(常総国道事務所調べ)



出典) 所要時間はプローブデータの平日平均旅行速度を用いて算出
(開通前: H26.11プローブデータ、開通後: H27.11プローブデータ)
※成田空港～水戸市役所間の所要時間を算出

■袋田の滝関係者の声



袋田観瀑施設
管理事務所

- ・袋田の滝を訪れる外国人観光客は増えており、特に、圏央道開通後は、ツアーバスで訪れる外国人観光客が増えてきています。

出典) 平成28年1月 ヒアリング調査(常総国道事務所調べ)

■茨城方面への観光ツアーを催行する旅行会社の声



太平洋旅行社
(台湾)

- ・圏央道の開通に伴い、那須方面に向かう周遊ツアーは、都心経由から水戸経由にルート変更しました。
- ・水戸に立ち寄るバスツアーは、2本/年から40本/年に増えています。



出典) 平成28年1月 ヒアリング調査(常総国道事務所調べ)

■茨城県周遊ツアー催行数



出典: 茨城県より提供 ※H27年度は12月まで

■茨城県の外国人宿泊者数の推移



出典: 観光庁 宿泊旅行統計調査 ※H27年は11月まで

効果② 一般道が安全・快適に

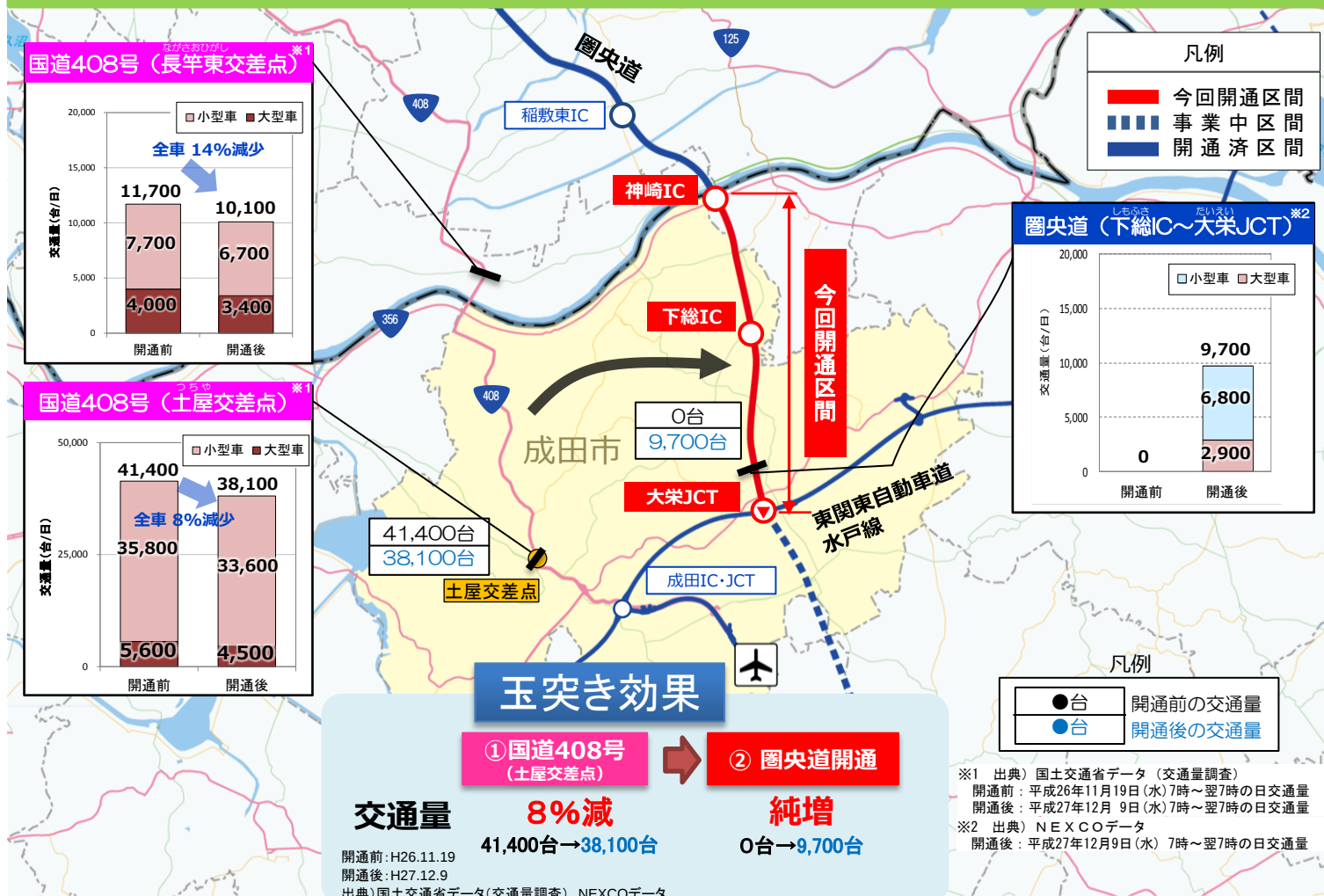
- 圏央道に交通が転換したことで、一般道がスムーズになり、急ブレーキの発生割合が減少

国道408号（^{つちや}土屋交差点）の交通量：41,400台/日→38,100台/日 [8%減]
 国道408号（^{ながさおひがし}長竿東交差点）の交通量：11,700台/日→10,100台/日 [14%減]

- 成田警察署管内（成田市）の一般道の交通事故発生件数※が前年比約4%減少

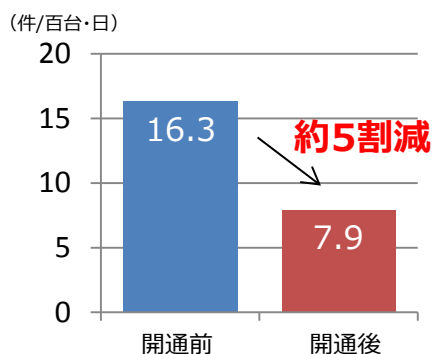
※物損事故件数及び人身事故件数の概数

一般道から圏央道へ交通が転換。周辺一般道の安全性が向上



急ブレーキ発生件数※の変化

【国道408号 ^{つちや}土屋交差点】



開通前：H27.5

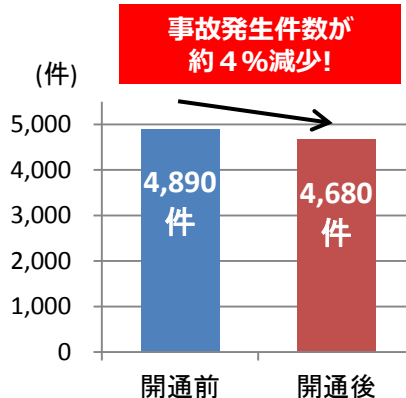
開通後：H27.7～H27.11

出典）ETC2.0道路プローブデータ

※：単位車両あたりの0.3G以上の急減速発生回数

交通事故発生件数の変化

【成田警察署管内（成田市）】



開通前：H26.1～H26.12

開通後：H27.1～H27.12

出典）成田警察署より提供

効果③

企業の生産性向上やドライバーの労働環境改善に貢献

- 1台のトラックが1日のうちに複数箇所への輸送が可能になるなど、**トラックの稼働率が向上し、企業の生産性向上に寄与**
- ドライバーの拘束時間の減少が見込めるなど、**労働環境の改善に期待**

成田空港への輸送時間短縮により、トラックの稼働率が向上

■ 開通前

別々のトラック2台で成田空港といわき市へ輸送



出典)所要時間はプローブデータの平日平均旅行速度を用いて算出。
(開通前: H26.11プローブデータ、開通後: H27.11プローブデータ)
※成田空港～日上市役所間の国道51号経由ルートの所要時間を算出

■ 開通後

トラック1台で成田空港といわき市への輸送が可能に



出典)所要時間はプローブデータの平日平均旅行速度を用いて算出。
(開通前: H26.11プローブデータ、開通後: H27.11プローブデータ)
※成田空港～日上市役所間の圏央道経由ルートの所要時間を算出。

成田空港へ運送する物流企業の声



真崎運送（日上市）

- ・今までは、成田空港に精密機器等の工業製品を輸送すると、1日1回の輸送しかできませんでしたでしたが、会社に戻ってきた後に、再度、いわき市等に輸送することが可能になりました。



物流会社（芝山町）

- ・急な発注時には、輸送時間が短縮できる圏央道を利用します。開通前の急な発注時と比較すると、輸送時間が短縮した分、帰社の時間が早くなり、拘束時間の削減も期待できます。

出典) 平成28年1月 ヒアリング調査（常総国道事務所調べ）

参考① 開通後の交通状況

●圏央道の開通後の日交通量は、平均9,300台/日

圏央道（^{こうざき}神崎IC～^{しもふさ}下総IC間）：9,300台/日

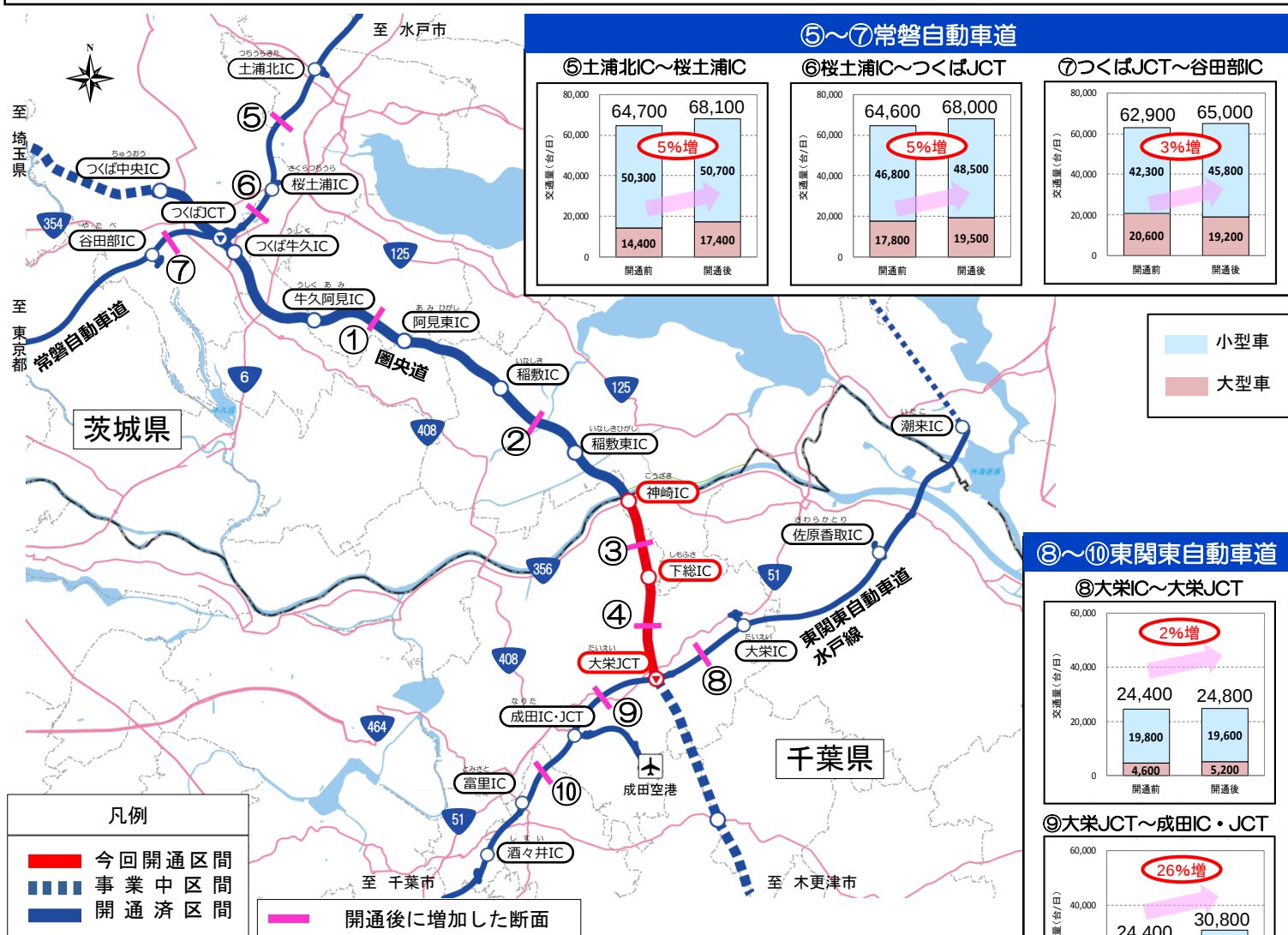
圏央道（^{しもふさ}下総IC～^{たいえい}大栄JCT間）：9,300台/日

●これまで開通していたつくばJCT～^{こうざき}神崎IC間の交通量は、対前年同月比較で増加。 常磐道、東関東道の交通量は、対前年同月比較で増加

圏央道（^{いなしき}稲敷IC～^{いなしきひがし}稲敷東IC間）：4,100台/日→10,900台/日[166%増]

常磐道（^{さくらつちうら}桜土浦IC～^{つくば}つくばJCT間）：64,600台/日→68,000台/日[5%増]

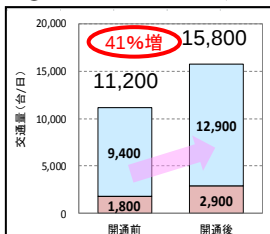
東関東道（^{たいえい}大栄JCT～^{なりた}成田IC・JCT間）：24,400台/日→30,800台/日[26%増]



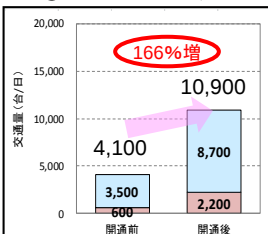
①～④ 圏央道

今回開通区間

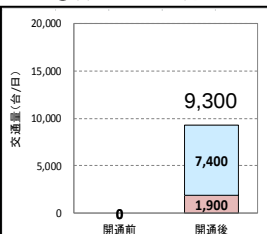
①牛久阿見IC～阿見東IC



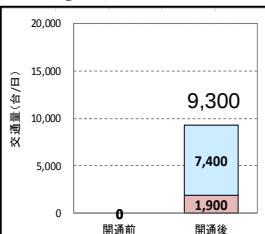
②稲敷IC～稲敷東IC



③神崎IC～下総IC



④下総IC～大栄IC



出典) NEXCOデータ

開通前：平成26年6月8日(日)～11月30日(日)の日交通量の平均値

開通後：平成27年6月8日(月)～11月30日(月)の日交通量の平均値

圏央道開通区間概要

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約241kmが開通しています。
- 今回開通区間の概要
路 線 名：一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）
○開 通 区 間：神崎IC（千葉県香取郡神崎町松崎）～大栄JCT（千葉県成田市吉岡）
○開 通 日：平成27年6月7日（日）17時
○延 長：9.7km
○車 線 数：暫定2車線
○開 通 IC（アクセス道路）：下総IC（（主）成田下総線）

■今回開通区間の位置図

